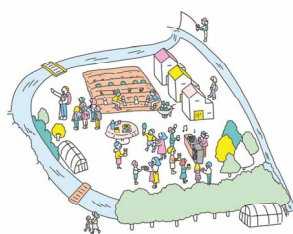


# りよく のう じゅう 緑農住 まちづくりシンポジウム

東京だからできる「緑と農がある暮らし」

令和4年9月28日（水） 13:30～17:00

主催：東京都 都市整備局 都市づくり政策部 緑地景観課



## 【プログラム】

### 第一部 講演（13:30～15:45）

第一部では、農地や里山、屋敷林等の身近な緑を活かす「緑農住」まちづくりの推進に向け取り組んでいる人達から、お話をうかがいます。

- |   |                      |
|---|----------------------|
| ① 東京都都市整備局都市づくり政策部緑地景観課                         | 緑農住まちづくりガイドラインについて   |
| ② 横張 真 氏（東京大学大学院教授）                             | 緑農住まちづくりとは           |
| ③ 武田 直克 氏（JA東京中央会特命参与）                          | 都市農業と緑農住まちづくり        |
| ④ 山口 卓 氏（㈱山口トマト農場代表取締役）                         | 農業従事者から見た緑農住まちづくり    |
| — 休憩 —  |                      |
| ⑤ 野村 亮 氏<br>（NPO法人 自然環境アカデミー代表理事）               | 里山保全と緑農住まちづくり        |
| ⑥ 齋藤 洋高 氏（㈱増木工務店代表取締役）                          | 住宅開発を通じた農地保全         |
| ⑦ 新 聡 氏<br>（町田市都市づくり部公園緑地課長）                    | 町田市におけるみどり空間活用に向けた取組 |
| ⑧ 佐藤 留美 氏<br>（NPO法人 Green Connection TOKYO代表理事） | 最新の都市農業トレンドと都市農業の可能性 |

— 休憩 —

### 第二部 パネルディスカッション（16:05～17:00）

第二部では、「緑農住」まちづくりに関する課題や疑問点をパネリストに聴き、解決策やヒントを一緒に見つけていきます。

#### コーディネーター

横張 真氏（東京大学大学院教授）

都市やその郊外の緑地環境計画・ランドスケープ計画を専門として都市農業、都市緑地計画、アジアの都市地域のサステナビリティ等を研究



#### 【略歴】

東京生まれ  
東京大学大学院修了 博士（農学）  
筑波大学大学院教授等を経て2013年より現職

#### パネリスト

佐藤 留美氏

（NPO法人 Green Connection TOKYO代表理事）

山口 卓氏（㈱山口トマト農場代表取締役）

新 聡氏（町田市都市づくり部公園緑地課長）

齋藤 洋高氏（㈱増木工務店代表取締役）

東京都環境局自然環境部緑施策推進担当課長

青山 一彦

東京都産業労働局農林水産部農業振興課長

野瀬 友利

東京都都市整備局都市づくり政策部緑地景観課長

菅原 淳子

## 緑農住まちづくりってなに？

「緑農住」まちづくりとは、産官学民が連携して、農地や里山、屋敷林等と住宅地が一体となっているまちの良さを活かし、その保全・活用をおこなうことで、そこで暮らす人々が、地域の課題解決や暮らしに新たな価値を生み出し、持続的でグリーンな社会の形成を実現することをいいます。

### 「緑農住」まちづくりガイドライン （令和4年3月）東京都



## —MEMO—

アンケートにご協力  
をお願いします。

右のQRコードより  
ご回答ください。



## 講演者紹介



### 武田 直克氏

(JA東京中央会特命参与)

東京都庁の農業部署に40年余り勤務し、1984年には農林水産省から見放された市街化区域内農業を振興するための都独自の農業支援策の創設、また、都市に農地が不要とされたバブル期の1988年には、農地の必要性を示すために、市街化区域内の農業と農地の実態調査を行い、これを基に1990年に都市農業検討委員会報告のとりまとめ等に携わりました。

2009年には、農業の多面的機能の一層の活用に向け、本日のコーディネーターである横張教授のご指導の下、「農業・農地を活かしたまちづくりガイドライン」を策定しました。その後、世界都市農業サミットを経験し、現在では東京の農地の保全策を考えながらJA東京中央会で農業者の方の営農支援業務に従事しています。

### 齋藤 洋高氏

(株式会社増木工務店代表取締役)

株式会社増木工務店は、創業150周年を機に前身の増木工業株式会社より分割承継され、新たな目標と未来を掲げ、事業会社として設立いたしました。

土を残して、緑を植え、自然環境をつくる。未来へ繋がる暮らしの種蒔きをすることが、増木工務店の仕事です。

本社がある「野火止 (のびとめ)」は新座市の中央にあります。ここには江戸時代に玉川上水から分水し開削された野火止用水が流れ、南北朝時代からの歴史をもつ平林寺などの緑地が保全され、かつての武蔵野の風景が多く残っています。

都心まで程近い場所でありながら、畑で作物をつくる地元農家も多く、街のあちこちに野菜の販売所が点在しています。

この穏やかな風景を残しながら住まい手や造り手だけでなく地域の人を魅了するものづくりを続け未来に誇る街づくりに取り組む地域工務店です。

### 山口 卓氏

(株式会社山口トマト農場代表取締役)

会計事務所に13年間勤務し、結婚で妻方の婿養子になり、33歳の時に就農。路地野菜、ブルーベリーの栽培を経て、平成24年4aの施設でトマトの長期多段取りを始めました。

平成26年：直売所開設

平成28年：8aの施設を建設

平成27、28年度：JA東京青壮年組織協議会 委員長

平成30年～：東京トマト養液栽培研究会 会長

令和4年度～：東京あおば農業協同組合 理事

### 新 聡氏

(町田市都市づくり部公園緑地課長)

町田市役所へ平成元年(1989年)に造園技術職として入職。公園緑地課に配属され、街路樹の維持管理や公園緑地の維持管理および整備等を担当しました。

地区街づくり課に在籍した2年半以外は継続して公園緑地課に在籍しました。

2019年6月から公園緑地課長現職

○野津田公園再整備事業

(2019年から整備工事着手して事業中)

○南町田拠点創出まちづくりプロジェクトにおける鶴間公園(2019年11月再整備後オープン)

○町田薬師池公園四季彩の杜西園(2020年4月オープン)

○芹ヶ谷公園芸術の杜パークミュージアム整備事業(公園内の美術館建設に合わせた再整備事業：基本設計まで2020年度に完了で事業中)

### 野村 亮氏

(NPO法人自然環境アカデミー代表理事)

NPO法人自然環境アカデミーは、環境教育を主な目的として2001年に設立されました。福生市に拠点を置き、周辺の多摩地区を中心に活動しています。もともと生き物好きな会員が集まって設立した団体ということもあり、生物多様性の保全の観点から、河川や公園緑地での植生管理、希少種保全、外来種の防除等に取り組んできました。

2013年から八王子滝山里山保全地域での里山保全活動を開始し、数十年放置された里山の再生と維持管理を行っています。具体的には、休耕田の復田、畑、果樹園の再生、竹林、雑木林の再生などです。食料、燃料、肥料、各種材料の生産を行いつつ、トンボ、カエル、ホタル等、里山生物の保全に取り組んでいるところです。

### 佐藤 留美氏

(NPO法人Green Connection TOKYO代表理事)

NPO法人Green Connection TOKYOは、みどり豊かで美しい国際都市“東京”を実現することを目的とし、2018年12月に設立されました。東京は日本の首都であり、世界最大級のメトロポリスです。2018年度のGPCI(世界の都市総合ランキング)はロンドン、ニューヨークに次いで3位です。その一方で、地球規模の気候変動の影響による都市災害への不安が現実化しています。また超高齢化社会を迎え、働き方改革やAIの台頭など、ライフ&ワークスタイルが大きく変化しています。これらのさまざまな都市の問題や変化に対応する鍵として、世界の各都市では「みどり」を都市のインフラとして位置づけ、積極的に増やそうとしています。

一方、東京には、すでに素晴らしい「みどり」があります。「みどり」を東京の、日本の、世界の財産としてこれからも活かしていくためには、多くの人々の力が必要です。「みどり」が主役のサステナブルな都市づくりのために、これからも多くのみなさまのご支援ご協力をいただければ幸いです。